

# 幸田文 文学碑

日光男体山の崩れを  
見にてかけた。  
ここでは崩壊を崩れ  
とは呼ばず、薙はぎといふ。  
薙はぎ払われ、薙はぎ切ら  
れた、幸い事変の故の  
ことだらう。  
崩れの速度はどんな  
だつたか、崩れたあと  
がどんな様子だつたか、  
男体山の山容の上に薙は  
ここいいう字を重ねてあれ  
これ思つてみる。

幸田文著「崩れ」より  
文選青木玉